

野外活動センター及び青少年ルーム 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】 野外活動センター・青少年ルーム  
【指定管理者名】 特定非営利活動法人 大東市青少年協会  
【評価対象年度】 令和4年度  
【施設所管課名】 産業・文化部 生涯学習課

業務内容について評価

条例・協定書等に基づき、適切な管理・運営を行っています。

近年のコロナ禍の影響から施設利用者の形態が大きく変化し、特に家族・小グループでの利用者が大きく増加している中、スタッフ・青少年リーダーによる効率的きめ細やかな対応が求められており、その期待に応えられています。

施設の利用者人数については、令和4年度は18,769人で昨年から大幅に増加しており、コロナ禍以前の令和元年度の状態にまで回復しています。(R3:10,736人、R1:18,495人、H30:19,598)

施設の運営業務については、センターやルームでの利用料金支払いについて、QRコード決済も導入したことや、許可業務(受付業務)において『google フォーム』を活用し、センター・ルームの2箇所と同じ情報を得られるようにしたことで、利用者の利便性の向上及び業務効率化に成果を上げています。

施設管理に係る設備等の修繕・清掃では、昨年度よりMicrosoft Teamsを導入し、オンライン上で修繕箇所や進捗状況の情報共有を図るとともに、ワーカーズと呼ばれる青少年協会のリーダーとボランティア協会員で構成されるチームによる活動が実施されています。また、消防学校とワーカーズの協働による施設美化活動については、地域連携の面からも費用の削減の面からも大いに評価できます。

自主事業においては、親子対象の「クッキングスタジオ」、「手作り味噌作りを楽しむ会」、「民具×米作り」などを実施し、また大東市子ども会育成連絡協議会への事務支援や校区子ども会の運営について、おまかせキャンプやリーダーのクリスマス派遣を行うなど、青少年育成に向け重要な役割を担っていただいていることは評価に値します。

野外活動センターの目的とする、野外活動及び集団生活を通じて青少年の健全な育成と、自然教育等による市民の心身の健全な発達と豊かで潤いのある市民生活の形成に向け、施設管理と事業実施に継続的な創意工夫が行われています。

利用者満足度について評価

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策等による施設の臨時休館や開館時間の短縮等がなかったこともあり、利用人数は前年度より大幅に増加しています。利用者への「お客様アンケート(262件)」の回答では、初めて訪れた方が6割を占める中、職員の対応に対する評価の大半が高評価という結果を示しています。これは利用者が気持ちよく利用できるよう、スタッフやワーカーズの方の意識の高さや、他の施設では行えないようなきめ細やかな接客によるものであり、初めてキャンプ場

を利用される方が、リピーターとなるという好循環が生まれていると評価できます。

今後も利用者の意見やニーズを積極的に取り入れながら、引き続きサービス向上に繋がる改善に努めていただきたいと思います。

#### 収支状況について評価

収入においては、コロナ禍の中においても前年度より回復傾向にあり、施設使用料は増加した。また、事業収入についても、運用方法を見直し事業数を大幅に増やしたため増加した。

支出については、コロナ禍での対応や、近年、施設利用者の形態の変化によるスタッフ数の増員により人件費が増加、また電気・ガス料金の高騰により光熱費が増加した。高騰分全額ではありませんが、光熱費高騰に係る指定管理者委託料の見直しを行いました。今後も、利用率、参加人数の増加や新たな事業の実施に取り組んでいただき、安定的な経営によるサービス向上を実現されることを期待します。

#### 総合評価

野外活動センターは、単なるキャンプ場ではなく、青少年の健全育成を目的の一つとしています。子ども会等との連携、小学生から始まり中学生・高校生・大学生・社会人、そしてその子どもへと循環していく枠組みは全国的にも数少なく、指定管理者が長年築き上げたノウハウと信用が大いに活用されています。また、コロナ禍への対応、そして新たな生活様式への取り組みにおいて web や SNS ツール活用するなど様々な創意工夫がなされていることを評価しています。また、過去から行われているワーカーズとリーダーによる修繕等の取り組みは、大人と青少年がコミュニケーションを図りながら行うことで、技術や経験の継承が図られているとともに、経費削減にもつながっています。

コロナ禍においても、子ども・青少年の健全育成はますます重要な課題であることから、今後も魅力的な施設運営と社会的ニーズを捉えた事業実施の推進に期待します。